

原著論文 (Original Article)

展示室とバックヤードから博物館活動を理解するための教材開発

Development of an educational program to understand museum activities from exhibition room and backyards

西村智弘^{1,2}

Tomohiro Nishimura^{1,2}

¹ むかわ町穂別博物館, 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

¹ *Hobetsu Museum, 80-6 Hobetsu, Mukawa Town, Hokkaido 054-0211, Japan*

² 北海道大学総合博物館, 北海道札幌市北区北 10 条西 8

² *Hokkaido University Museum, Kita 10, Nishi 8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0810 Japan*

Corresponding author: T. Nishimura, tnishimura@town.mukawa.lg.jp

Abstract. Present study develops an educational program to understand museum activities and roll of each room in the Hobetsu Museum. An educational print includes museum activities and floor map of the museum is newly designed. This educational program held for 38 participators in childrens' fossil club in Mukawa Town, second to sixth grade of elementary school children. Results show 28 (73.8 percent) and 6 (15.8 percent) children felt well understanding and moderate understanding of rolls of each room of the Hobetsu Museum, respectively. Good impressions of this program were mainly caused by their premium experiences, such as touchable of dinosaur fossil, enter the backyards which are ordinarily closed, and observable many fossils in deposited rooms, rather than understanding of roll of each museum room. This program, although, is able to carry out for small numbers of participators, affects the high educational effect with premium experiences.

Keywords: educational program, museum activity, museum backyard

(2019 年 10 月 20 日受付, Received 20 October 2019)

I はじめに

博物館活動は、収集・保存、調査・研究、教育・普及（展示）を三ないし四大要素として位置づけられ（倉田，1979；青木，2012 など）、博物館の機能としても、それら用途にそった部屋・スペースが設置されている。博物館で一般的に公開されているのは展示室のみであるが、それ以外のスペースについて確保されないと博物館の活動が成り立たない。

むかわ町穂別博物館は、学芸員が 1 ないし 2 名が配置されてきた博物館で、地域の特性と博物館の規模により、当地域から産出する化石・古生物に特化した博物館活動を進めてきた（むかわ町穂別博物館，2019 など）。活動開始から 13 年後にあたる地徳（1995）による小規模博物館の活動指針のまとめにより、専門性のある程度狭めて活動を進めるべきという活動方針が改めて確認された。

こうした方針の下、穂別博物館では、外部の研究者との連携を通して研究活動を進め、近年でも新種アンモナイト（Shigeta and Nishimura, 2013 など）や世界で初めて夜行性とされた新種モササウルス類（Konishi *et al.*, 2016）、日本最高の恐竜化石とも呼ばれる新種で全身骨格の恐竜；*Kamysaurus*（通称むかわ竜）（Kobayashi *et al.*, 2019）などを発表し、資料の収集・保管や展示活動を続けてきた。

新種の恐竜化石は、その発見や発掘が書籍（土屋，2016；山本・サイドランチ，2019）やテレビ放送で紹介されてきたため、博物館活動として資料の収集（発掘）や保存（収蔵）の重要性が一定程度は周知されたものと考えられる。しかし、多くの来館者に対して開かれているのは展示室だけであるので、博物館は展示があるのみの施設であると捉えられる恐れもある。こうした点の解決などを目的に、多くの博物館では一部の来館者に対

してバックヤード見学を行っている。

むかわ町穂別博物館でも、一部の来館者にのみであるが、バックヤード見学を行う機会があった。そこで、この機会に展示室およびバックヤードの各部屋の役割を理解することを通して、博物館活動も理解する教材の制作を行った。

II 穂別博物館バックヤードの概要

むかわ町穂別博物館（2006年に「穂別町立博物館」から名称変更）は、1982（昭和57）年に開館し、1992（平成4）年に展示室改修が行われ、この際に人文系および化石・古生物の展示から、化石・古生物を中心とした展示に変更された。1995（平成7）年に別棟のかせき学習館が建設され、学芸員の研究室、作業スペースは本館から移設された（むかわ町穂別博物館、2019など）。

本館の学習展示室および隣接する書庫は、開館当初からむかわ町立穂別図書館（旧・穂別町立図書館）として、利用されてきた。本館の研究室および整理室は、かせき学習館建設後は、応接室および倉庫・掃除用具置き場として利用されている（図1）。展示室やバックヤードの紹介を目的としたものではないが、西村・櫻井（2019）にも各部屋の紹介がされている。

III 対象および制作した教材

1. 対象

博物館バックヤード探検の対象としたのは、2018年度から開講している「むかわ町子ども化石くらぶ（ハドロキッズチーム）」（現在は博物館職員も所属するむかわ町役場穂別総合支所恐竜ワールド戦略室が主催）で、第2期2019年度の会員である小学2年生～6年生（計46名、当日参加者は38名）である。この会に参加しているのは、むかわ町以外に苫小牧市や札幌市、函館市など北海道各地の恐竜や化石に興味のある児童である。

2019年度の第1回である5月12日にガイダンスとアンモナイト研磨、博物館バックヤード探検を開催した。第1回のスケジュールは表1の通りで、バックヤード探検は最初に2・3年生の19名、後半に4～6年生の19名が参加した。保護者の見学も認めていたので、2・3年生組の途中から保護者の参加があった。

むかわ町子ども化石くらぶの活動目標として、

表1. 5月12日のスケジュール。バックヤード探検は、2・3年生、4～6年生ともに1時間開催。

Table 1. Timetable of children's fossil club in Mukawa Town in 12th May 2019. Museum backyard tour was held in one hour for each second-third and fourth-sixth grades of elementary school children.

時間	4～6年生	2・3年生	場所など	備考
13:00～13:30	開会 オリエンテーリング	4～6年生と同じ	穂別町民センター	
13:30～13:50	徒歩移動	徒歩移動	穂別博物館、アースギャラリー（博物館向かいの建物）へ	保護者会設立説明会（13:40～14:10）穂別町民センター
13:50～14:50	アンモナイト研磨	博物館バックヤード探検	アンモナイト研磨：アースギャラリー	
14:50～15:50	博物館バックヤード探検	アンモナイト研磨	博物館バックヤード探検：博物館	
15:50～16:00	アンケート記入 集合写真撮影 閉会	4～6年生と同じ	アースギャラリー	

「化石を楽しく科学して将来の古生物学者への道を目指す」が掲げられているので、将来研究者として働くモチベーションを与えられるように、工夫した。

2. 制作した教材

博物館バックヤード探検では、博物館活動の全体像を見せるために、博物館の活動の柱であるとされている、①資料の収集・保存、②調査・研究、③教育・普及に関する部屋をすべて見せることにした。加えて、部屋ごとの役割を記入できるようなプリントの制作を行った。すなわち、博物館活動に関わる展示室や収蔵庫、学芸員部屋をそれぞれ異なる色で示した。プリントの左には、博物館活動の柱とされる活動内容である①～③について、小学生低学年でもわかるような簡単な言葉（①あつめる、②しらべる、③つたえる）と、それぞれの詳細について記した。これらを部屋ごとに記入できるように、右側の博物館見取り図の各部屋名称の下に（括弧）を記した（図1）。

博物館各部屋の名称は、開館時からの正式な名称でなく実際に利用されている形態に変更した。例えば、本館の研究室は1995年以降には応接室として使用されているので、応接室として記した。

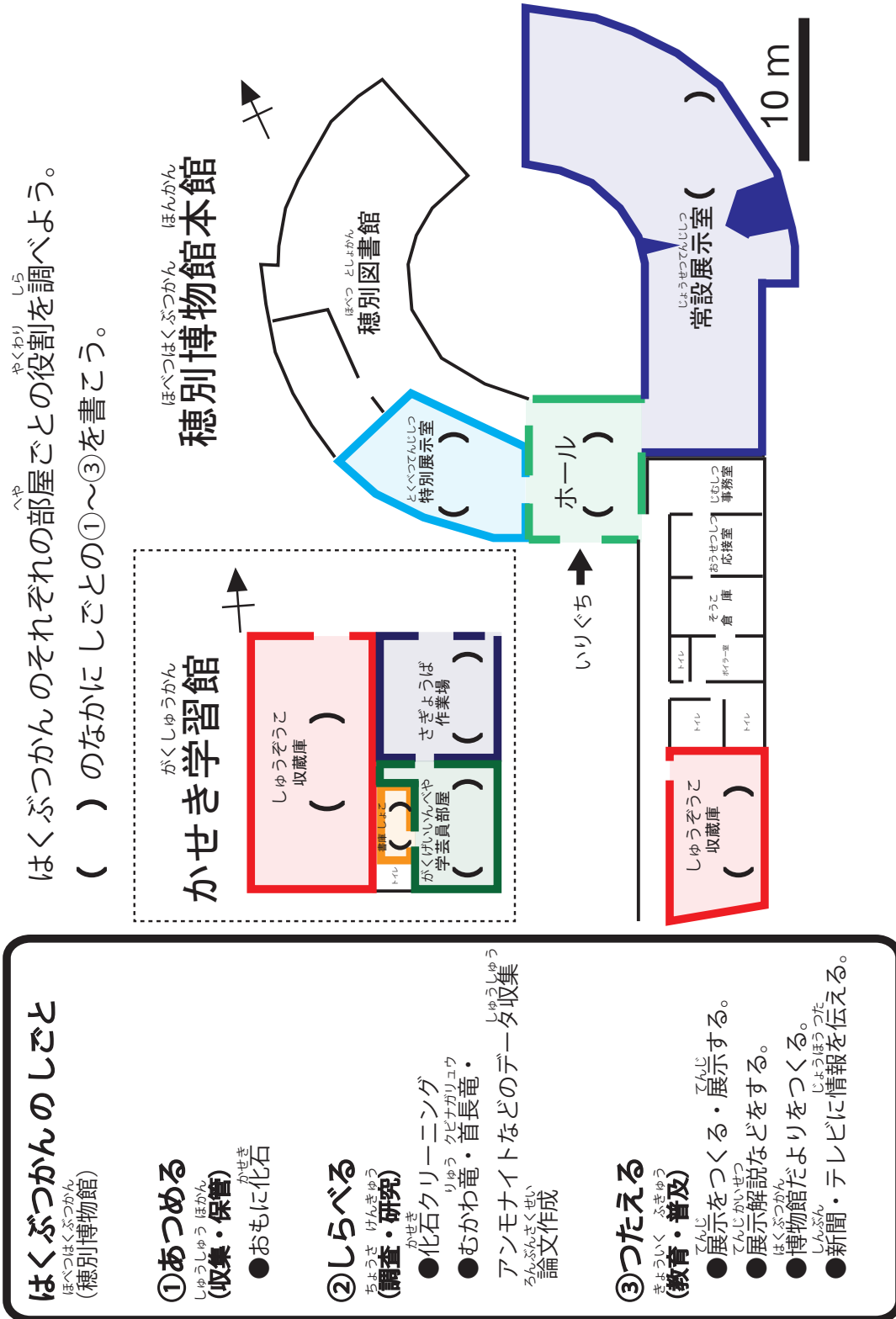


図 1. バックヤード探検で使用したプリント。左に博物館の業務をまとめている。右に博物館の間取りがあり、それぞれの部屋の役割を記入する。

Figure 1. An educational print using museum backyard tour of the Hobetsu Museum. Jobs of the museum summarized the left (down). Floor map of exhibition and backyard rooms of museum showing the right (upper). Rolls of each room are able to fill in the bracket.

IV 実施内容

バックヤード探検で案内する部屋の順序としては、初めに通常開館しているホールと常設展示室、特別展示室を紹介した。次に本館のバックヤード（収蔵庫）を紹介し、最後に別館であるかせき学習館各部屋を紹介した。

バックヤード探検の時間としては2・3年生、4～6年生ともにそれぞれ1時間開催した。当初予定していたスケジュールとしては博物館入口前（博物館の役割や学芸員の業務に関する発問）に10分間、ホール・常設展示室・特別展示室に計5分間、本館収蔵庫に5分間、別館収蔵庫に10分間、別館作業場に5分間、学芸員部屋・書庫に10分間である。移動時間と予備の時間として15分ほど見ていたが、全体的に時間が伸びたので、ちょうど1時間程度の内容となった。

2019年度のむかわ町子ども化石くらぶでは、入会時に「化石くらぶでやりたいこととその理由」というテーマで、作文の提出を課した。この中で「採集した（化石）資料の整理の仕方を知りたい」や「恐竜（むかわ竜）化石を触りたい」「魚が好きで、魚化石のことを知りたい」という希望もあったので、希望に添える点はなるべく対応するようにした。

初めに博物館入口に集合し、いくつかの発問を行った。最初に「穂別博物館に来たことがある人」と聞いた。ほとんどが複数回の来館経験があったが、両回とも数人が初めての来館であった。次に「博物館はどのような場所であるか」と発問し、もの・化石が展示しているところという回答を得た。「どのようなものが展示されているか」との問いに対しては、当館の資料である、恐竜、首長竜、アンモナイトなどの返答があった。ここまでで、展示についての回答しか出なかったため、「博物館で働いている職員・学芸員は何をしているか」という発問をした。答えとして（企画）展示の制作、化石採集や化石クリーニング、研究という回答があった。その他の教育・普及活動の答えが出なかったため、「恐竜・むかわ竜の発見や発掘をどういった媒体で知ったか、なぜそれを知ることができたか」と発問し、新聞社・テレビ局などの媒体を挙げたところ、情報提供者として考えられるのは、恐竜研究を中心的に進めている北海道大学総合博物館の小林快次教授であるとの答えが出た。新聞社やテレビ局には博物館の学芸員

からも情報を提供し、その対応によって情報が発信されていることも紹介した。博物館の活動として、観光に関する答えは出なかった。

次に、図1に示したプリントとバインダーを配布し、プリントの内容、博物館活動の柱となるべき活動を説明した。その後、本館のホール・常設展示室・特別展示室の観覧を行った。

本館ホール・常設展示室・特別展示室の観覧については、（博物館開館日であれば）いつでも観覧することができるので、全体的な概要を見て回るだけであることを説明し、展示を見て回った（図2A）。2・3年生の一部は、目の前にある資料にくぎ付けになることが何度かあり、展示室の観覧がスムーズに進まないことが複数回あった。常設展示室などはいつでも見学できることを再度説明し、急いで展示室内を見て回った。展示室などに入る前に、自分たちが現在いる位置をプリントで確認し、部屋を見終わった後に、その部屋には①～③の内どの役割に該当するかをプリントに記入させた。

次に本館収蔵庫を案内した（図2B）。本館収蔵庫では最も丁寧に整理されている登録資料（穂別博物館自然史系資料、HMG）を見せ、資料と一緒にラベルが保管されていることを紹介した。加えて、将来調査・研究を行う予定の未クリーニングの脊椎動物化石資料などを見せた。

その後、別館のかせき学習館に移動し、同じく収蔵庫の見学を行った（図2C）。かせき学習館の収蔵庫は、本館収蔵庫よりも新しく受け入れた資料などが保存されており、ここ数年で受け入れた膨大なアンモナイト資料や、恐竜むかわ竜（一部だけは常設展示室）や、首長竜ホベツアラキリュウ化石のうち常設展示室に展示していない部位、研究中の首の短い首長竜全身骨格などを収蔵している。博物館リニューアル後に常設展示を考えているティラノサウルス“スコッティ”全身復元骨格（レプリカ）が分割して収納されている大型の木箱も複数あり、1階部分のスペースの大部分を占めている。スコッティ入りの箱が目前にあり、学芸員が説明する前に児童から「ティラノサウルスがあるの？」と質問されたので、その点について答えた。次にホベツアラキリュウと研究中の首の短い首長竜、近年寄贈されたアンモナイト資料を収蔵庫の2階で観察した。これら北海道産のアンモナイト資料には、今後新種として記載される可能性があるものなどが含まれていることを説明



図 2. 博物館バックヤード探検の様子。A. ホールでの説明。説明者（学芸員）が図 1 のプリントを拡大印刷し、現在地の確認をしながら案内した。B. 本館収蔵庫の見学。C. 別館収蔵庫での恐竜化石収蔵スペース。D. 別館作業場。学芸員による化石クリーニングの実演（矢印）。E. 別館学芸員部屋。学芸員机の奥（矢印）から学芸員（研究者）が見ている普段の風景を見せた。F. 学芸員の机まわり。研究・教育普及に用いる化石資料（右下）と大量の書籍、および研究や普及活動に使用しているパソコン。

Figure 2. Photographs of the museum backyard tour in children's fossil club in Mukawa Town. **A.** Attendance by curator in the museum hall. Understanding present locality using printed Fig. 1. **B.** Tour of repository room in the main building. **C.** Tour of repository room in the sub building. **D.** Preparation room in the sub building. Preparation of fossil was demonstrated by curator (arrow). **E.** Curator's room. To see the curator's ordinary sightseeing, observing the curator's desk from behind his desk (arrow). **F.** Curator's desk. Fossils under research and/or education (in the plastic containers; right), many books of geology and paleontology, and PC which used for various museum activities.

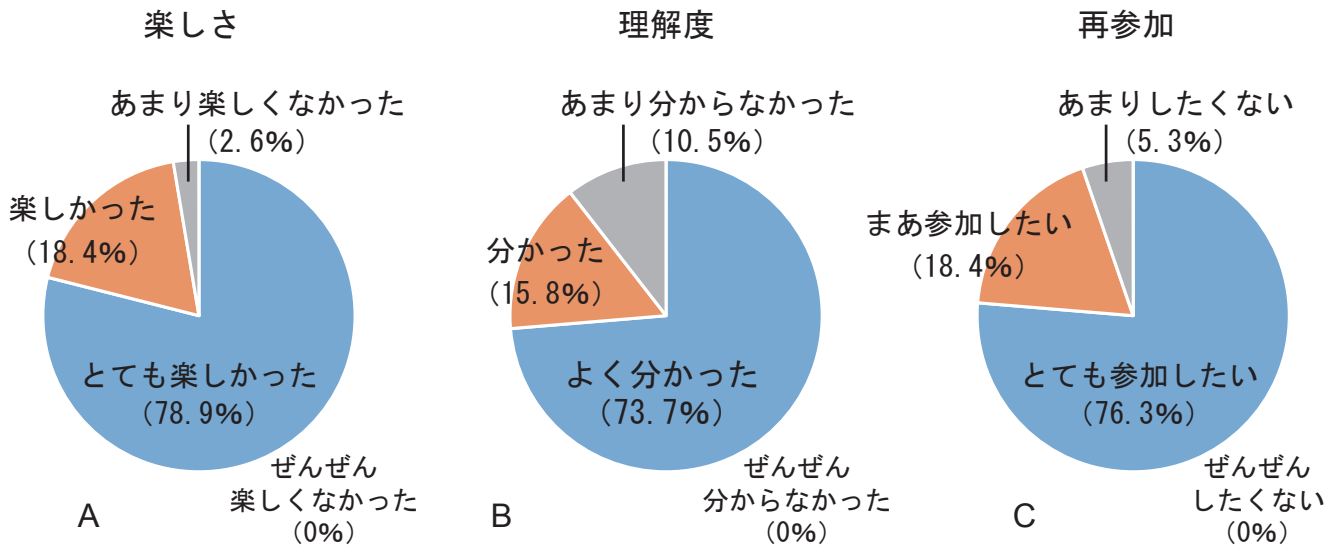


図3. 児童のアンケート結果. A. 博物館バックヤード探検の楽しさ. B. 博物館各部屋役割の理解度. C. 博物館バックヤード探検の再参加希望

Figure 3. Result of questionnaire. A. Enjoy in museum backyard tour. B. Result of understanding in roll of each museum room. C. Result of re-attendant of museum backyard tour.

した。

続いて1階部分に移動し、恐竜むかわ竜が収蔵されている場所に移動した。優しく扱えるのであれば、むかわ竜化石を触ってもいいことを約束し、児童全員に触らせた。後ろで見学していた保護者も恐竜化石を触った。この頃から児童は、これまで見てきた博物館各部屋に②しらべる（調査・研究）に該当する部屋がないことに気が付きました。

次に、博物館の作業場に移動した。普段クリーニング作業を進めている学芸補助員は、アンモナイト研磨の活動補助を行っていたので、学芸員がクリーニング作業を実践して見せた（図2D）。また、この部屋でレプリカ製作もできることを説明した。

その次に学芸員部屋に移動した。学芸員部屋では学芸員ごと（2019年度は元学芸員の櫻井館長と西村学芸員）にパソコンがあり、論文執筆、博物館だよりの制作、プレスリリースの制作などを行っていることを説明した。また、学芸員の机の周りに現在研究している化石や、教育・普及に使用予定の化石（むかわ町子ども化石くらぶで使用予定だった化石）、研究済みで広報予定であった化石などを見せた。化石くらぶでは、研究者を育てることを目標としていたので、単に学芸員の机周りを見せるのではなく、学芸員のスペースを普

段の学芸員の目線で見せるため、学芸員の席の後ろ側からその風景を見せた（図2E, F）。

最後に、隣の書庫を見せた。時間が無くなったので、入口から書庫を見るだけにとどめた。

IV アンケート結果

アンケートは、この教材の目的が達成されたかを評価するとともに、次回の改善点を把握するために実施した。児童には5月12日の第1回むかわ町化石くらぶ終了時に第1回全体（開会式・アンモナイト研磨を含む）のアンケートとして解答してもらった。保護者には、第2回（6月）の開催案内とともに、第1回後の児童の反応・変化についてのアンケートをメールで送った。

1. 参加した児童のアンケート結果

参加した児童のアンケート回収率は100パーセントであった。

楽しさを問う設問の答えとして「とても楽しかった」「楽しかった」「あまり楽しくなかった」「ぜんぜん楽しくなかった」の4段階にした。

「とても楽しかった」が30件・全体の78.9パーセント、「楽しかった」が7件・全体の18.4パーセント、「あまり楽しくなかった」が1件・全体の2.6

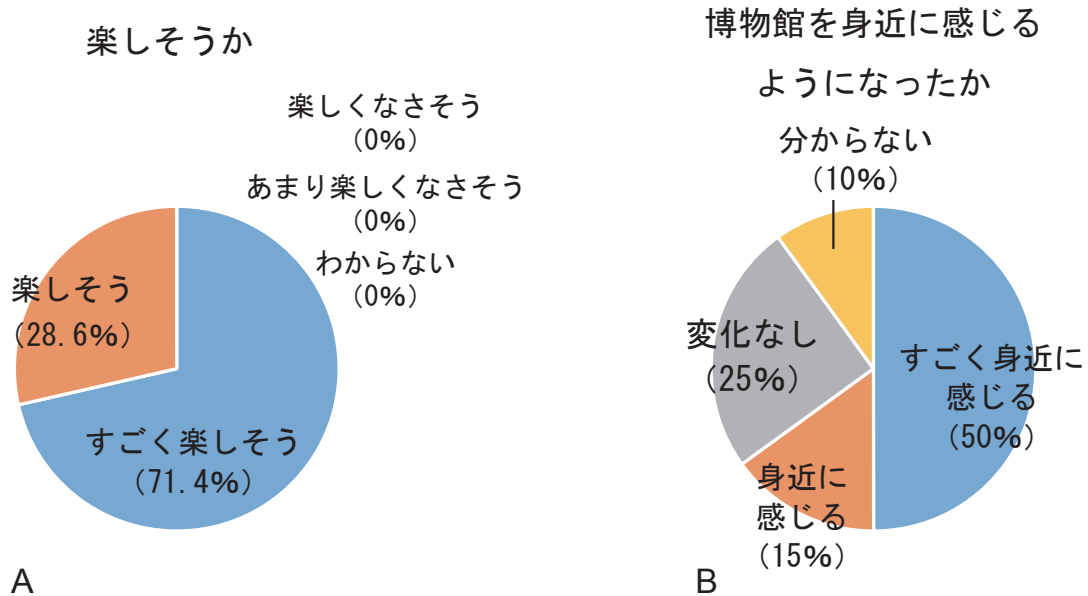


図 4. 保護者からみた児童の反応. A. 児童が楽しそうに感じているか. B. 児童が博物館を身近に感じるようになったか.

Figure 4. Result of questionnaire of child's reaction observed by their parent. A. Result of enjoy in museum backyard tour. B. Result of close relationship between child and museum.

パーセントであった (図 3A).

理解度を問う設問「博物館の仕事と部屋ごとの役割は分かりましたか?」の答えとして「よく分かった」「分かった」「あまり分からなかった」「ぜんぜん分からなかった」の4段階にした。

「よく分かった」が28件・全体の73.7パーセント、「分かった」が6件・全体の15.8パーセント、「あまり分からなかった」が4件・全体の10.5パーセントであった (図 3B)。

再参加の意志を問う設問「博物館バックヤード探検に、また参加してみたいですか」の答えとして「とても参加したい」「まあ参加したい」「あまりしたくない」「ぜんぜんしたくない」の4段階にした。

「とても参加したい」が29件・全体の76.3パーセント、「まあ参加したい」が7件・全体の18.4パーセント、「あまりしたくない」が2件・全体の5.3パーセントであった (図 3C)。

自由記述欄には「むかわ竜に触れて良かった・夢みたいだった」という意見が6件、「普段公開していないところが見れて良かった」という意見が5件、「いろいろな化石を見ることができて良かった」が3件、「展示していないティラノサウルス全身復元骨格があったのに驚いた」が2件あった。その他としては、「次は化石を収蔵するまで

の過程を知りたい」、「もう少し時間が欲しい」、「化石がいっぱいありすぎてあまり分からなかったものもあった」という回答を得た。

2. 参加児童の保護者アンケート結果

保護者アンケートはメールでの返答、および2019年度むかわ町子ども化石くらぶ第2回受付時に回収した。回収されたのは、21件55.3パーセントであった。参加児童の反応を問うアンケートであり、最初の質問である「むかわ町子ども化石くらぶ第1回のことについて、第1回開催後にご家庭でお話されましたか?」は21件すべてのアンケートで「話した」と回答を得た。その後の博物館バックヤード探検の設問についても全件が解答している。

参加児童がどのように感じているように思われますかという問い(バックヤード探検)の答えとして「すごく楽しそう」「楽しそう」「楽しくなさそう」「あまり楽しくなさそう」「分からない」を設定した。

「すごく楽しそう」が15件で全体の71.4パーセント、「楽しそう」が6件で全体の28.6パーセントであった (図 4A)。

「博物館バックヤード探検を通して、児童が博物館を身近に感じるようになりましたか?」とい

う設問の答えとして、「すごく身近に感じる」「身近に感じる」「変化なし」「分からない」を選択した。

21 件のアンケート結果のうち、1 件がこの項目に未回答であった。「すごく身近に感じる」が 10 件で全体の 50 パーセント、「身近に感じる」が 3 件で 15 パーセント、「変化なし」が 5 件で全体の 25 パーセント、「分からない」が 2 件で全体の 10 パーセントとなった (図 4B)。

自由記述欄には、普段見ることができないところを見ることができて良かった・貴重な体験ができたことが 4 件、むかわ竜に触れたことをとても喜んでいたことが 1 件記述された。

IV 考察

児童のアンケート結果を見ると、本プログラムの「楽しさ」「部屋の役割の理解」「再参加希望」の結果がほぼ同様で、各項目の最高評価である「とても楽しかった」「よく分かった」「とても参加したい」が 70 パーセント以上、4 段階評価の 3 段階目の高評価である「楽しかった」「分かった」「参加したい」が 15 パーセント前後であった。参加した児童がもともと恐竜や化石好きであったことも大きな要因であると思われるが、こうした結果はプログラムとして全体の理解度と楽しさを融合することができた結果であると考えられる。化石好きの児童にとにかく多くの化石を見せるという選択肢もあったが、「将来の古生物学者を目指すという」目標の選択肢の一つとして化石系の博物館で勤務することも含まれるので、博物館活動の理念や博物館の機能についても伝えられた点は成功だと考えられる。保護者アンケートでは、児童のアンケート結果よりも若干楽しさが低評価になったが、それでもすべての回答が「すごく楽しそう」「楽しそう」であったので、好評であったことは確認できる。

むかわ町子ども化石くらぶでは、将来の古生物学者を目指すという目標を立てていることもあり、プログラム実施後の児童の変化について「博物館を身近に感じるようになりましたか」と質問した。しかし、設定した回答が活動後の変化について答えるのか、それとも普段から身近に感じているのかという点について曖昧になってしまったので、効果的な分析ができなかった。

アンケートの結果、特に自由記述の結果を見ると、このプログラムの大きな魅力が普段は見るこ

とができない所を見学できることであり、特別感を与えるように工夫した恐竜化石に触れることを許可したことなどが、何人かの児童に深い感動を与えたようである。このプログラムは数人のスタッフが付かないと開催できないのと、バックヤードのスペースの問題で人数は制限されるが、将来的に博物館勤務する可能性のある人材や、ボランティアとして深く活動に関わる可能性のある人材に、博物館や化石の魅力を伝えることができたのは大きな成果と思われる。

課題としては、バックヤードが観覧用に設計されていない、普段から見せるために整理していないので十分に事前の案内順序・通路について準備をしておかないと児童および資料双方が危険にさらされてしまう点が挙げられる。このプログラム制作時の当初の目的であるバックヤード紹介を第一の目的とするのであれば、御船町恐竜博物館や愛媛大学附属博物館などで行っているように、収蔵庫や作業場の一部をガラス張りにして紹介する施設を建設することで解決するが、既存の施設を改修するのは容易ではない。このような整備無しでも今回開発した教材などは開催可能であり、博物館活動や博物館各部屋の機能についての十分な理解が期待される。

謝辞

櫻井和彦館長には、制作したプリントについてのコメントをいただいた。博物館ボランティアの村上隆氏、宮田洋介氏、星野美樹氏、長野あかね氏、鶴川高校恐竜研究同好会の宮尾竜馬氏、川口世界氏にはむかわ町子ども化石くらぶ活動時の引率・活動写真撮影を手伝っていただいた。むかわ町子ども化石くらぶの参加児童および保護者の方にはアンケート調査に協力していただいた。上記の方々にお礼申し上げる。

文献

- 青木豊, 2012, 第 2 章 博物館論, 大堀哲・水嶋豊編, 博物館学 I, 17-39.
 地徳力, 1995, 博物館活動と小規模館の“学芸員”業務についての考察. 穂別町立博物館研究報告, 11, 37-46.
 Kobayashi, Y., Nishimura, T., Takasaki, R., Chiba, K., Fiorillo, A., Tanaka, K., Togtataar, C., Sato, T. and Sakurai, K., 2019, A “crested” hadrosaurine (Dinosauria; Hadorosauridae) from the marine deposits of the Late Cretaceous Hakobuchi Formation,

- Yezo Group, Japan. *Scientific Reports*, **9**, 12389, <https://doi.org/10.1038/s41598-019-48607-1>
- Konishi, T., Caldwell, M.W., Nishimura, T., Sakurai, K. and Tanoue, K., 2016, A new halisaurine mosasaur (Squamata: Halisaurinae) from Japan: the first record in the western Pacific realm and the first-documented binocular vision in mosasaurs. *Journal of Systematic Palaeontology*, **14**, 809—839.
- 倉田公裕, 1979, 博物館学. 東京堂出版, 280p.
- むかわ町穂別博物館, 2019, むかわ町穂別博物館館報, **34**【平成28(2016)年度版】, 32p.
- 西村智弘・櫻井和彦, 2019, 穂別博物館の2018年北海
- 道胆振東部地震被害. むかわ町穂別博物館研究報告, **34**, 13—25.
- Shigeta, Y. and Nishimura, T., 2013, A new species of *Gaudryceras* (Ammonoidea, Gaudryceratidae) from the lowest Maastrichtian of Hokkaido, Japan and its biostratigraphic implications. *Paleontological Research*, **17**, 47—57.
- 土屋健著, 2016, ザ・パーフェクトー日本初の恐竜全身骨格発掘記, 誠文堂新光社, 東京, 314p.
- 山本佳輝・サイドランチ, 2019, 漫画むかわ竜発掘記, 誠文堂新光社, 東京, 192p.

西村智弘, 2020, 展示室とバックヤードから博物館活動を理解するための教材開発. むかわ町穂別博物館研究報告, **35**, 1—9.

Tomohiro Nishimura, 2020, Development of an educational program to understand museum activities from exhibition room and backyards. *The Bulletin of the Hobetsu Museum*, **35**, 1—9.

(要 旨)

博物館の展示室およびバックヤード各部屋の役割を考え, 博物館活動を理解するためのプリントおよび教材を開発し, 実践した. 実施したのは, 将来の研究者(古生物学者)を目指すことを目標として参加しているむかわ町子ども化石くらぶに所属する小学生2~6年生計38名で, 参加者中28名(73.7パーセント)が博物館の役割をよく理解し, 6名(15.8パーセント)が理解したと回答した. このプログラムが参加者に好評だったのは, 博物館の役割の理解よりも, 普段は立ち入ることの出来ない場所に入ることができる特別感や優越感のようである. 今回制作したプログラムは小人数にしか対応できないものの, 参加者に特別感・優越感を与えた上で, 教育的な配慮を施せるという特徴が認められる.